

第18回行徳臨海部まちづくり懇談会

◀ 戻る



第18回目の行徳臨海部まちづくり懇談会が、平成17年12月21日(水)に市川市職員研修所研修室にて開催されました。

会議では、行徳臨海部の課題に係る最近の状況について事務局から報告があった後、人と水と緑のネットワーク整備事業、本行徳石垣場・東浜地区地域コミュニティゾーン、塩浜の護岸について意見交換が行なわれました。

＜写真＞

第18回行徳臨海部まちづくり懇談会の様子

【開催日時】 平成17年12月21日(水曜日) 18時30分～20時30分

【開催会場】 市川市職員研修所 研修室

【出席委員】	西村幸夫(東京大学教授)※座長	風呂田利夫(東邦大学教授)
	熊川芳男(行徳地区自治会連合会)	歌代素克(南行徳地区自治会連合会)
	佐野郷美(市川緑の市民フォーラム)	丹藤翠(行徳まちづくりの会)
	東良一(行徳野鳥観察舎友の会)	藤原孝夫(市川市行徳漁業協同組合)
	及川七之助(南行徳漁業協同組合)	富田伸彦(市川市塩浜協議会まちづくり委員会)
	田中晋一(都市再生機構千葉地域支社)	永田健(市川市助役)

＜敬称略＞

【会議次第】

1. 開会
2. 行徳臨海部の課題に係る最近の状況について(報告)
 - ア) 主な経緯について
 - イ) 今後の予定について
3. 人と水と緑のネットワーク整備事業について
4. 本行徳石垣場・東浜地区地域コミュニティゾーンについて
5. 塩浜護岸について
6. その他
7. 閉会

【会議資料】 [行徳臨海部の課題に係る最近の主な経緯\[資料1\]](#)

行徳臨海部の課題に係る今後の予定[資料2]

千葉県行徳内陸性湿地再整備検討協議会概要[資料3]

人と水と緑のネットワーク資料 [資料4]

[人と緑のネットワーク](#)(PDFファイル 10KB) [人と水のネットワーク](#) (PDFファイル 9K)

B)

[人と水と緑のネットワーク方針図\(案\)](#)(JPEGファイル 149KB)

地域コミュニティゾーン土地利用基本計画(案)[資料5]

[「市川市塩浜護岸改修に係る千葉県三番瀬再生計画\(事業計画\)\(案\)\[資料6\]](#)(千葉県ホームページへ)

[市川市塩浜護岸改修に係る実施計画書\(案\)\[参考資料\]\(千葉県ホームページへ\)](#)

海岸保全施設の技術上の基準を定める省令(平成16年3月23日農林水産省・国土交通省令第1号)[資料7]

改正海岸法(国土交通省河川局ホームページ抜粋)

【議事内容】[ここをクリックしてください](#)

※各委員から提出された説明用資料については、掲載しておりません。懇談会の資料は、市川市役所市政情報センターなどで閲覧できます。

(作成:平成18年1月6日 最終更新日:平成18年 8月18日)

[まちづくり懇談会トップページへ](#) [←第17回懇談会](#) [第19回懇談会→](#)

 戻る



市川市 街づくり部 行徳臨海対策課
Copyright (c) 2006
Ichikawa City. all rights reserved.

行徳臨海部の課題に係る最近の主な経緯(H17.7.19以降)	
年月日	内 容
平成17年	平成17年12月21日
7月19日	第17回行徳臨海部まちづくり懇談会開催(市川市)
7月21日	三番瀬再生会議が三番瀬を視察(千葉県)
7月22日	第2回市川海岸塩浜地区護岸検討委員会開催(千葉県)
7月27日	市川市環境審議会開催(江戸川第一終末処理場環境影響評価準備書諮問)(市川市)
7月28日	行徳地区自治会連合会が県・市に対し処理場建設の促進と地元説明会の開催について要望書を提出
8月1日～8月31日	千葉県三番瀬再生計画(基本計画)(案)に対する意見募集(千葉県)
8月1日～8月30日	江戸川左岸流域下水道江戸川第一終末処理場の環境影響評価準備書の縦覧(千葉県)
8月7日	環境影響評価準備書の説明会開催(千葉県)
8月8日	塩浜協議会が塩浜地区護岸改修整備に関する要望書を知事・市長へ提出
8月11日	「塩浜1丁目地先護岸の応急補修に係る費用負担について」要望書を知事へ提出(市川市)
8月16日～8月30日	江戸川左岸流域下水道の都市計画変更案の縦覧(千葉県)
8月17日	三番瀬に係る生物調査結果の報告会開催(千葉県)
8月17日	市川市環境審議会開催(江戸川第一終末処理場環境影響評価準備書諮問)(市川市)
8月24日	第17回行徳臨海部特別委員会開催(市川市議会)
8月24日	江戸川左岸流域下水道の都市計画変更案について市川市へ意見照会(千葉県)
8月25日	第17回行徳臨海部対策本部幹事会開催(市川市)
8月25日	市川海岸塩浜地区護岸構造に関する勉強会開催(千葉県)
8月28日	行徳地区自治会連合会への江戸川第一終末処理場県市合同説明会開催(県・市)
8月29日	第4回三番瀬漁場再生検討委員会開催(千葉県)
9月1日	第18回行徳臨海部対策本部開催(市川市)
9月1日	市川市環境審議会開催(江戸川第一終末処理場環境影響評価準備書の答申)
9月15日	第3回市川海岸塩浜地区護岸検討委員会開催(千葉県)
9月16日	第17回行徳臨海部特別委員会開催(市川市議会)
9月22日	第7回三番瀬再生会議開催(千葉県)
9月29日	市川市都市計画審議会開催(江戸川左岸流域下水道都市計画変更の答申)
9月30日	第4回市川海岸塩浜地区護岸検討委員会開催(千葉県)

9月30日	東邦大学理学部環境科学市川講座開催(市川市後援)(連続講座5回・シンポジウム)
10月2日	三番瀬まつり開催(主催:市川市塩浜協議会、三番瀬環境市民センター、市川市)
10月17日	第1回三番瀬問題特別委員会開催(千葉県議会)
10月19日	第5回市川海岸塩浜地区護岸検討委員会開催(千葉県)
11月2日	第9回市川塩浜まちづくり研究会開催(市川市)
11月8日	江戸川左岸流域下水道の都市計画変更案に対する回答を千葉県へ提出(市川市)
11月17日	第6回市川海岸塩浜地区護岸検討委員会開催(千葉県)
11月21日	第19回行徳臨海部対策本部開催(市川市)
11月22日	第2回三番瀬特別委員会開催(千葉県議会)
11月24日	第5回三番瀬漁場再生検討委員会開催(千葉県)
11月25日	第8回三番瀬再生会議開催(千葉県)
11月30日～12月20日	市川海岸塩浜護岸改修事業に係る千葉県三番瀬再生計画(事業計画)(案)に対する意見募集(千葉県)
12月14日	三番瀬の魚介類等に関する勉強会開催(千葉県)
12月19日	第3回三番瀬特別委員会開催(千葉県議会)
12月20日	第150回千葉県都市計画審議会開催(千葉県)
12月21日	第18回行徳臨海部まちづくり懇談会開催(市川市)

[第18回行徳臨海部まちづくり懇談会のページへ](#)

人と緑のネットワーク

妙典市街地と第一終末処理場を結ぶ街路空間	(佐野)	・(2本の道路のうち)片方は人や自転車を意識した道路を、片方は自動車を意識した道路を整備していくべきではないか。
行徳市街地と塩浜地区を結ぶ街路空間	(丹藤)	・丹藤氏から具体的な提案(テラス的な場所を近郊緑地の中に設け、変化をつける)
南行徳市街地と塩浜地区を結ぶ街路空間		
行徳近郊緑地と第一終末処理場を結ぶ歩行者空間	(風呂田)	・現状では堤防が急傾斜で危険であり、立入禁止にせざるを得ない。すると、その構造まで含めて何かの仕掛けをつくることが可能だし、今の船の管理をどうするかまで考える必要がある。
	(西村)	・歩道を片側に寄せて、住宅地が広いところにできれば、使い勝手も良い。
	(風呂田)	・緩傾斜護岸を造るなど構造変更はできないのか。土の土手になると、景観的にも歩き心地が良くなる。
	(松沢)	・千鳥橋に向かって中江川の歩道を立体に変更して造るという話は止めて欲しい。(道路の)幅が広く不法車両でどうしようもない。
	(丹藤)	・丹藤氏から具体的な提案(緑地や階段状のステージ、スロープ、テラスなどをつくり、色々な顔をもち楽しめる空間にする)
行徳近郊緑地と市川塩浜駅・塩浜地区と海・三番瀬を結ぶ環境軸	(東)	・市川塩浜駅からフラットな形で湾岸道路に蓋をかけて、その上を緑地ゾーンのような形にできないか。
	(安達)	・緑の道だと思わせる中身が必要。
	(川口)	・日本における法令上の問題などを加味すると、トンネルなど下を通す案もある。
	(佐野)	・賑わいのエリア全体を市川塩浜駅の高さに抑えることが重要なポイントである。
と接続する行徳近郊緑地沿いの歩行者空間	(風呂田)	・御獵場を、街の空間として、生活と密着できるよう、市として宮内庁に働きかけが必要である。街と空間をリンクさせることが必要。
	(富田)	・近郊緑地の堀が高すぎるので、緑により見えなくするなど工夫が必要。
	(安達)	・鳥類保護を優先すべき「コアゾーン」は必要であるが、「バッファゾーン」を設け、市民の利用を考えていくべき。
	(風呂田)	・治安上、人間の精神上、人気がなく、車が多く走っているところを、生活(の道)として歩くことはできない。
	(丹藤)	・丹藤氏からの具体的な提案(部分的に透けた壁をつくり、照明やテラス的な場所をつくることで、変化をつけて見て楽しい歩道にする)
	(佐野)	・野鳥の楽園として保全された場であり、保護区は人が制限されて当然の場という視点が必要。

行徳近郊緑地と市民体育館・猫実川沿いの歩行者空間	
行徳近郊緑地と第2終末処理場を結ぶ内陸地の市街地を回遊する歩行者空間	
行徳ふれあい周回路と猫実川に沿って三番瀬まで結ぶ歩行者空間	(佐野) <ul style="list-style-type: none">葦原の復元と合わせて、緑道など人が通る構造を考えるとともに、ホームレスの人たちには申し訳ないが一般の人が気持ちよく通れるようにして欲しい。
内陸部の市街地を連絡する街路空間	

その他全般的な事項	(西村) <ul style="list-style-type: none">街路樹について、高木で無選定にするか花木でみせる樹木にするか常緑樹なのか、低木、中木、高木、ボリューム、樹種の考え方など計画のポリシーが必要。また、街路樹で景観上、街路樹の樹種を統一したい。各通りにプライオリティを付け、コミュニティロードにするかなど、街路ごとのポリシーが必要。
	(風呂田) <ul style="list-style-type: none">観光とか商用とか積極的にその道を通過することによる得られる構図が見えてこない。ネットワークをつくることによって歩いてみたくなるような誘導などネットワークをつくった効果について議論が必要。
	(丹藤) <ul style="list-style-type: none">外から人が積極的に来たくなるような街なのか、住民がそこそこ快適ならいいのかという中では、友達に「ちょっと来てよ、うちの街に」と言えるレベルのまちづくりを考えて欲しい。
	(佐野) <ul style="list-style-type: none">自然や景観や歴史的なもの、賑わいなどが連続的にあると楽しみながら歩いていける。必要なものは何なのか、それをどこにどう配置するのかを明らかにする必要がある。
	(風呂田) <ul style="list-style-type: none">人が参加できるようになるなど人との関与を付け加えないと、将来的に地域のものとしてなかなか浸透していくかない。
	(風呂田) <ul style="list-style-type: none">357から上は、住民が手作りでできる（樹を植えたり）という地域のこだわりの空間として植栽を利用していく。そうすれば、そういう文化が生まれる。南側は用途をや海岸の機能により拠点としての機能を議論していく必要がある。

人と水のネットワーク

1 第1終末処理場調整池からのせせらぎ	
2 中江川の水環境の改善	(松沢) ・地域の人は臭いの問題があり（川に）蓋をしてくれと言うだろうが、水の表が見える川にするのか、蓋をした形にするのかが問題。
3 丸浜川及び猫実川での葦原の復元	
4 三番瀬と行徳近郊緑地との水交換の促進	(佐野) ・旧江戸川からの水を上手に行徳のまちを流しながら、例えば保護区の中を通し、三番瀬のほうに流す、そういう新しい水道を考える必要がある。開渠にして広げて、陸側を湿地化できないかというイメージが再生会議でもでており、淡水が常時流れれば稚貝が遡上する可能性もある。 (風呂田) ・保護区の中の池が一番上流で、回りまわって三番瀬に広がっていく使う方が良い。開削をするのであれば、前面にその流れの受け皿をつくるなど、トータルな流れが必要。
5 護岸整備に合わせた海辺のプロムナード	(佐野) ・単調な護岸が延々1キロ続くのではなく、変化をつけることが重要。 (風呂田) ・保全生物的な視点とともに社会的活用の視点からみると、人口干渉も積極的に評価すべきである。 (丹藤) ・単調な断面が延々続くのではなく、色々な顔があって楽しめる場所になると良い。 (富田) ・5mくらいの直立護岸がたつと、刑務所のようになってしまって、安全を考えながら出来るだけ護岸の高さを抑える構造にして欲しい。
6 漁港ゾーンを通る海辺のプロムナード	(佐野) ・管理用スペースを前（海側）に出すのではなく、戻るような格好で傾斜の護岸にできたら良い。 (風呂田) ・船橋側に船で渡ることを考えるなど、水辺でネットワークが止まるのではなく、水を介してその先にネットワークを広げていくイメージが必要。
その他全般的事項	(東) ・現状では湿地という自然環境について、多くの住民は好まないのでは。水辺の縁など自然空間として、景観的に住民が受け入れてくれるものを、管理の仕組みを含めモデル的につくっていくべき。 (尾藤) ・ポイント・ポイントで水路みたいなものを散歩道に抱き合わせる。

交流拠点

千鳥橋詰め	
江戸川放水路湾岸道路下の泥干潟	<p>(風呂田) ・地元の環境学習や人材育成の場としていかすべき。野鳥のためのエリア、野鳥の楽園が確保できないか (佐野) ・終末処理場の空間の利用について、子供の遊び場などの利用方法の工夫が必要である。 ・市川市で唯一陸から船を使わずに干潟に降りられる貴重な場所であり、法水路の環境を大きく改変しないように、アクセス等陸側を上手に整備すれば環境学習の場などに利用できる</p>
猫実川河口	<p>(佐野) ・カキ礁があり、臨海部の貴重な財産としてきちんと見守っていく必要がある。 (丹藤) ・猫実川の河口も干潟に戻したほうが良い。 (風呂田) ・3丁目のほうが湿地帯から干潟に発達する自然構造に近く、こちら側をどれだけ利用するかにより、海浜構造が全部違ってくる。</p>
賑わいの環境軸と海辺の環境軸の交点	
行徳駅前通りと海辺の環境軸の交点	
市川漁港	<p>(安達) ・シーフードレストランなどおしゃれな感じでは、浦安やお台場に勝つのは難しい。特に小さい子供の多いまちなので、むしろ朝市的なもの、密着したものが良い。 (佐野) ・漁港の規模や構造、位置の検討にあたっては、三番瀬の再生に支障の無い範囲で検討すべき。 ・上手く経済的な仕組みを取り入れていくべき。 (安達) ・現状は船をつけてるだけで漁港のイメージはしない。魚の販売など漁港施設を作るべき。 (藤原) ・友達が遊びにきたときに、ここにきたら美味しいものがあると言えるような場所にしていくべき。 (丹藤) ・エコツーリズムのようなものも将来的に可能性がある。 (佐野) (川口) ・団塊の世代の人などを対象に貸し出し漁場にするなども考えられる。</p>
漁港ゾーン先端部	
その他全般的事項	<p>(尾藤) ・拠点と言っている部分については、使い方(ソフト)の部分を考えていかなければならない。</p>

